



耐久高等学校同窓会報

耐久



創立170周年記念式典

記念展示

「讃えよ耐久吾等が母校」

一階中央展示スペース

令和4年11月3日

NO. 51



実行委員長挨拶



大西 義弘
(高16期)

創立170周年記念事業実行委員長
和歌山県立耐久高等学校同窓会長

秋光天地に満ち、木々を彩る錦秋の今日

和歌山県立耐久高等学校創立170周年記念式典を挙行政致したところ、和歌山県知事様はじめ多くのご来賓のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

実行委員会では、三年前よりのコロナ禍の下、記念事業や式典開催など危惧致しましたが、ご列席の皆様と共に今日の佳き日を祝い、新たな歴史が積み重ねられたことは慶賀の至りであり、光栄の極みにございます。本校は、嘉永5年・1852年、濱口梧陵・濱口東江、岩崎明岳の三翁が創設した稽古場に始まります。170年の時の流れで、幾多の変遷がありました。この間にあっても「耐久」の名は消えることなく、建学の精神は脈々と受け継がれてまいりました。

同窓生は、およそ三万人にのぼり政治・経済・文化など様々な分野において和歌山県のみならず、国内外で活躍しています。輝かしい伝統と歴史を築き上げた、先賢・先輩諸氏に対し敬意と感謝を申し上げます。

昨年11月5日の「世界津波の日」に「濱口梧陵偉業顕彰シンポジウム」が県民文化会館で開催されました。シンポジウムでは、講師先生の講演の後、本校生徒が、「防災学習」、「濱口梧陵の生き方に学ぶ学習」や「地域へのボランティア活動」など、これまで学校で取り組んできたことを堂々と発表し、私は大変感銘を受けました。

生徒の皆さんは、本校の建学の精神や、梧陵の崇高な生き方を学んでいます。こうした学習は、皆さん一人一人の誇りであり、大きな財産になると思います。

す。今後、多くのの方々や後輩諸君に永く伝えていくべきです。

第二部の記念講演は、新型コロナウイルス感染対策について、日夜陣頭指揮をとり尽力されている和歌山県福祉健康部技監 野尻孝子先生です。先生から貴重なお話を伺えると思います。よろしくお願いいたします。

第三部は、朗読と歌による生涯劇「梧陵さん」をファミリーコース「ほほえみ」の皆さんでお送りします。最後の合唱は、本校合唱部の皆さんと共にお届けします。どうぞお楽しみください。

さらに本校二階の「耐久史学館」で記念展示をしています。本校創設者三翁が開いた稽古場から現在の耐久高校に至るまでの歩みを年表や写真などで解説しています。また梧陵と交流のあった偉人たち、梧陵の思想や功績、学校改革者の宝山良雄、本校を卒業した著名人についても紹介しています。一階中央陳列棚では生徒さんの書道などの作品を展示しています。是非立ち寄りください。

今、我が国は大きな激変期を迎えており、教育の果たす役割はますます重要になってきています。本校を取り巻く教育環境も厳しいものがあります。

私たちは170周年を新たな出発点として、伝統の灯を燃やし続け、その上に新しい歴史を築き上げ、更なる発展に努める決意でございいます。

今後とも、本校教育に對しまして、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます、ごあいさつと致します。ありがとうございました。

令和4年11月3日



総務司会：岡本幸子(高39期)

生徒代表挨拶



生徒会長
梶本 千尋

今年、私たちの学校和歌山県立耐久高等学校は創立170周年を迎えました。そして、今日多数の皆様のご臨席をいただき、創立170周年記念式典がこのように盛大に開催され、お祝いしていただきますことに、私たち生徒一同心より感謝いたします。

昨年、濱口梧陵氏生誕200周年シンポジウムがあり、私たちの先輩が「引き継がれる梧陵の精神」と題して発表を行いました。その発表を見た時、私は歴史と伝統ある耐久高校の生徒であることを誇りに思い、これからの私たちの未来も創設者の思いを引き継いでいくべきだという責任を改めて感じました。

濱口梧陵氏は、地域の人々を助け地域の復興に尽力しました。私も日々の勉強やクラブ活動で学んだことを活かし、地域や社会にある様々な問題や課題の解決に向け取り組んでいきます。校長先生の言葉にもあつたように、人の痛みや苦しみを感じ、自分の大切さとともに他の人の大切さを理解し、正々堂々と自分の信念に基づき、正しい道を歩んでいきます。

耐久高校がこんなにここまで歩み続けた170年という長い歴史の重みは、私たちの想像をはるかに超えるものです。先輩方が努力を重ねてこられたからこそ、耐久高校が長い歴史にわたり発展し続ける事が出来たのだと思います。

これからも私たち現役の耐久高校生が、地域に貢献できる人材になれるよう、勉強、クラブ、ボランティア活動などに頑張ります。そして耐久高校の素晴らしい伝統を後輩たちに伝えていくことをお誓いしまして、生徒代表の挨拶といたします。

令和4年11月3日

支部連絡先	和歌山耐久会	関西耐久会	関東耐久会	有田耐久会
	会長 西 博 義 〒640-8301 和歌山市岩橋 1690-47 Tel 073-475-2677	会長 地 引 民 子 幹事長 宮 崎 裕 子 〒563-0017 大阪府池田市伏尾台 3-8-1 Tel 072-753-1219	会長 林 紀 男 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-3-12-1002 株式会社 オフィス ココ 桜バンケット Tel 03-3359-9520	会長 和 泉 保 廣 〒643-0004 有田郡湯浅町湯浅 1985 耐久高等学校・同窓会事務局 Tel 0737-62-4148

学校長式辞

和歌山県立耐久高等学校校長

大西 弘之

(高33期)



本日は、和歌山県立耐久高等学校創立170周年記念式典にあたり、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜りましたことを、始めに高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

激動の時代、変化の激しい時代にあつて、本校が170年という長きにわたり、その歴史と伝統を築くことができましたのは、和歌山県和歌山県教育委員会、和歌山県議会、域内市町村長会、同窓会、育友会、地域の皆様など、多くの方々のご理解とご支援の賜物であります。重ねて感謝申し上げます。

本校は我が郷土の先覚者―濱口梧陵が同郷の濱口東江、岩崎明岳と共に幕末の国際情勢に備えるため、嘉永5年に現在の広川町に「自学自労」の教育方針で開いた稽古場にその起源を有します。ご存じのように校名は稽古場の名称「耐久社」によるもので、この名称には学舎が未来永劫続き、「自学自労」の精神に満ちあふれた人材が育ちますようにという梧陵らの熱い思いが込められています。その後、明治25年に「耐久社」から「耐久学舎」に、大正9年には和歌山県立耐久中学校へと改称し、昭和23年の学制改革により耐久中学校と有田高等女学校が併合して和歌山県立耐久高等学校が発足しました。昭和28年には定時制課程が併設され、地域の勤労青少年の高校教育を保障し、これまで少人数指導を中心に個に応じた指導の充実に努めています。本日、170年の節目を迎えるまで、

昭和27年には「創立100周年記念祭」が、平成14年には「創立150周年記念式典」が挙行されています。このように本校は、江戸、明治、大正、昭和、平成、そして令和と激動の時代にあつて、決して平坦な道程ではなかったにもかかわらず、170年という長きにわたり、その歴史を刻むことができましたことを生徒、教職員と共に感慨もひとしおであります。校訓の「真健美」は耐久学舎の舎長宝山良雄が耐久の歴史と伝統を拡張し、発展させようと制定した三綱領「真健美」に由来します。本校はこの理念を脈々と受け継ぎ、次代を担う人材育成に努めています。約三万名に及ぶ卒業生は、国内外を問わず、政治、経済、科学、文化などあらゆる分野にわたって活躍されています。

「温故知新」―本校は常に時代の変遷を見つめつつ、真摯に教育の実践に取り組んでまいりました。この十年を振り返りますと、社会の有り様や少子化、子どもの変容に伴い、本校においても教育の改革に取り組んでいます。あらためて、本校の在り方として「文を修め、武を練る」との校風のもと勉学への意欲向上というまでもなく、クラブ活動や学校行事、地域貢献や社会貢献に意欲的に取り組んでいます。勉学においては生徒の可能性を最大限に広げ、進路目標の達成と進路実績の向上に努めています。また、近年のクラブ活動の実績には目を見張るものがあります。「バドミントン」「剣道」「囲碁将棋」「マンドリン」は全国規模のレベルであり、和歌山県を代表するクラブであります。「硬式野球」「軟式野球」等、全国レベル以外のクラブにおいても、年々めきめきと力を付けています。また、本校は平成31年度から文部科学省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の研究指定を受け、「地域の様々な分野で、自らの力を発揮する品格と活力を備えたグローバルリーダーの育成」に努めています。加えて、本校は国際理解教育の推進にも取り組んでいます。国際理解教育は県下に先駆け、昭和

52年から取り組みを開始し、現在、アメリカ、中国、ニュージーランドの学校と姉妹校を結んでいます。今年度においてはコロナ禍ではあってもタイからの長期留学生を受け入れ、現在、1年生のクラスで共に学んでいます。今後とも、本校は有田地方のグローバルリーダー育成に向け、さらなる飛躍を遂げるよう進化し、より一層、地域から信頼を得、必要とされる学校として邁進してまいります。

さて、生徒の皆さん、私は折に触れ「三鬼を追いつめる耐久生」と題して話をしてきました。「三鬼を追うものは一鬼をも得ず」欲張り過ぎてひとつの目標さえも達成できない、という古くからの教えです。しかし、本校では勉学とクラブ活動、いわゆる「文武両道」の「二鬼」に加え、国際理解教育や地域貢献、社会貢献への積極的な参加を求め「三鬼を追いつめる」教育の充実を図っています。こうした全ての教育活動を通して、皆さんがリーダーシップやコミュニケーション力、他者との協働的な営みの中で、人として成長することを願っています。しかしながら、生徒の皆さん、この世の中は正しいことや平穏なことばかりではありません。将来、皆さんは様々な矛盾や不合理、あるいは災害や危機に出くわすかもしれません。その時、皆さんにはそうした世の中の有り様を憂い、嘆くのではなく、正々堂々と自らの信念と正義を貫き、正しいことをしっかりと主張して欲しい

と思います。そして、その一方で、ともすれば、正しいことや正義を追求することさえ困難になっている人々の、様々な苦しみや悩み、痛みを心から理解し、寄り添いながら共に正しい道に向かうよう、この社会を導くことのできる人間になつて欲しいと私は願っています。これからも本校は、創始者―濱口梧陵翁が災害による危機真只中にあつて、民衆を安心・安全な世に導いた、その心を引き継ぎ、真理を全うする多くの若者を育ててまいります。

最後に、本日ご列席の皆様には、今後とも本校への変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。また、皆様の益々のご健勝とご発展を祈念し、私の式辞といたします。

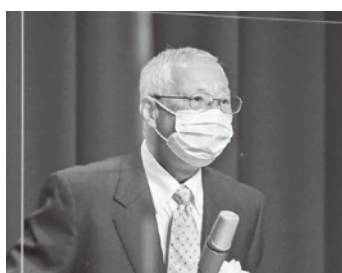
令和4年11月3日



来賓：赤坂知事室長



来賓：宮崎県教育長



閉会宣言：和泉保廣(高22期)



目録贈呈：森裕美(高26期)

創立170周年
記念講演

「新型コロナウイルス感染症との闘いに思う」
～ 梧陵さんの心の継承～

和歌山県福祉保健部 技監 野尻孝子先生



講師：野尻技監(高25期)

野尻氏は、耐久高校25期生で和歌山県立医科大学卒業後、小児科臨床医を経て御坊保健所長、日高振興局健康福祉部長、県福祉保健部健康局長を歴任され現在は和歌山県福祉保健部技監として活躍されています。

令和2年2月13日、県内で発生した院内感染を3週間で終結させ、感染者の全員入院、接触者への徹底したPCR検査などで感染を減らしてきた取り組みは「和歌山方式」として評価されました。早期発見・早期介入・早期隔離・入院は知事の方針で必要だと判断すれば国の通知・基準にとらわれず柔軟に対応しました。



講師紹介：弓場守(高30期)

感染症は一人が1000人にも感染させることもあり対策は迅速に組織的に行い情報を伝達するためにも命令指揮系統の確立が大事です。和歌山県の新型コロナウイルス感染症保健医療対策体制は、知事が指令本部長で実質的な感染症対策本部長は技監のトップ。技監は、課員三十数名を率い県内の7保健所を統率します。保健所は感染者や感染源など疫学調査などを行い拡大防止に必要な業務を担います。保健所は全国的に各地で統廃合が進められています。和歌山は地震・津波対策で保健所体制が維持され人口10万人当たり保健師数は46.1人と全国6位でコロナ対策の大きな力になりました。全例入院(感染者をすべて入院させる)は、和歌山独自の対策で感染者の急な容



花束贈呈：松尾愛華生徒会副会長

態の変化や重症化に対応するとともに家庭内感染などの二次的な感染拡大を防止するために実施しました。第1波・第5波までの感染者は、重症、中等症、無症状とともに重層的に対応し同じ病院に入院させました。全例入院は、保健所を中心として拡大防止を行い、県庁に感染者の情報を集約しコロナ病床を迅速に確保したうえで、技監が入院先を決定し入院要請を行うことで可能になりました。第6波に入ると感染者が増え病床不足が予測され、2022年1月21日全保健所にトリアージ入院体制を指示し、入院(治療)・宿泊治療(隔離)・自宅療養と優先順位を付ける医療体制を取りました。感染症対策における技監の役割は、対策の企画・立案。データの分析・まとめ、コロナ病床の確保・調整、医師・看護師の派遣、保健所・病院への指導などを行い感染者の入院先・救急受診先を決定・調整することであり、同時に唯一の広報官としてコロナへの対策や情報を伝達

(昨年までは連日知事とともにテレビ会見した) しています。入院調整は、県内の病院の病床の状況が技監のもとにすべて集約されそれを見て技監が判断し直接行っています。各保健所からの一日数十回以上の電話を受け入院先を指示する労力は大変ですが頑張っています。新型コロナウイルスはいったん沈静化したかに見えたが、第7波に入り規制緩和が緩み感染者が増え続け今後も要注意です。誰も経験したことのない新型コロナウイルス感染症に対して保健所長の経験と感染された方から得たデータ等に基づき、保健医療行政のトップとして、県民の命と健康を守るため積極的に取り組み、かつ最大限の努力をし続けました。果たして「梧陵さんの心を」継承できたでしょうか。

最後に在校生に対しては「何のためだろうとばかりいか考える。挫折を力に。失敗は恐れない。頑張れば結果はついてくる。身体が資本。健康な体と精神。仲間が力になる」という言葉がおくられました。

坂本康寛(高18期)



謝辞：三角治(高25期)

母校170周年の誇り



関東耐久会会長 林 紀男 (高13期)

耐久高校OBとして170年に及ぶ校歴に大きな誇りを感じています。

170年を刻み続けるには、脈々と流れる創立の理念、教壇を引き継ぐ教師の情熱、そして地元やOBといったサポーターの存在。これらがどれも欠かせないと思います。

まず、創立者梧陵翁の事績ですが、広村津波から復興までの減私の尽力、東西に張り巡らす情報収集網と蔵書、西洋医学への支援、さらに人材育成につなげる耐久社の創立など実に幅広いものです。そしてそれらの根底に通じるのは奉公と進取の気性です。耐久170年を紡ぐ縦糸としてこの奉公と進取の気性がある。進取の気性に富み、公(社会)に資する若者を育てようという理念です。

この教育理念を踏まえて情熱溢れる先生方が地元の若者を育

て続けてくれました。私は新制13期ですが、松宮先生など多くの師に恵まれたと感じています。いまでも松宮青歩句集を手元に置いています。

地域やOBのサポートが170周年を導いてくれたことも間違いありません。歴史ある町の包容力です。こうした創立者、歴代教師、地元への深い感謝を思う次第です。

関東耐久会は150周年を機に創設されましたから丁度20周年です。梧陵翁のもう一つのご活躍の舞台は関東(銚子・東京)です。翁の遺志を継ぎつつ永続していきたいと願っています。ただこの先は少子化や都市集住がすすみ、新卒の上京や関東耐久会への新規加入は急には回復しないでしょう。それでもポストコロナ禍のなか魅力ある活動を織り交ぜながら新しい加入者を待ちたいと考えています。

創立170周年記念式典に参加して



関西耐久会会長 地引民子 (高17期)

文化の日、この栄えある式典に関西耐久会からは、鈴木祥生副会長(32期)、宮崎裕子幹事長(31期)と私の三人で参加させていただきました。

懐かしい古い校門から入り受付を済ますと、60年前と同じ制服の高校生が席まで案内をしてくれました。タイムスリップしたような気分になりながらも、今の耐久生はしっかりしているなあと感心しきりでした。

第一部記念式典は、各地の耐久会の代表も講壇に上がり、粛々と進行しました。これだけの会を進めるには学校や本部の方々の準備はどれほどだったでしょう。

続いて、野尻孝子先生の記念講演がありました。和歌山県でのコロナの対応を、中心になって進めておられます。その先生が、耐久高校の出身ということを知り、驚くと同時に誇りに思

いました。

フィナーレの「梧陵さん」は圧巻でした。朗読と歌とピアノが実にうまくマッチしていました。朗読で、物語の筋がよくわかり、ピアノでリズムに乗り、最後まで飽きることがありませんでした。高校時代にこの「梧陵さん」と出会っていたら、もう少し真剣に勉強したのではないだろうか、などと思いつつながら傾聴しました。

このような記念すべき会に臨席させていただきましたこと、心から感謝申し上げます。

紙面をお借りして、関西耐久会の現状をお知らせいたします。幹事は時々集まり、会報を送ったり、フェイスブックを発信したりして、先輩が作り上げてくれた「関西耐久会」を発展させるべく努力を続けています。今年の6月4日(日)、アイトホテル大阪ベイタワーで総会の予定をしております。コロナが収まってくれることを祈るばかりです。

ペットと泊まるログハウスの宿
パートナーズハウス ゆあざ
横山 享
(高14期)
湯浅町山田山・TEL・FAX 0737-65-3411
URL: <http://www.partnershouse.jp>

総合ビルメンテナンス・特定人材派遣
(株)ウイキャンコーポレーション
取締役会長 岡 伸彦(高14期)
代表取締役 岡 勇作(高19期)
〒535-0002 大阪市旭区大宮4-15-9
TEL 06-6954-0346
FAX 06-6954-0577

小畑産業株式会社

代表取締役 小畑 英三 (高18期)
〒640-8033 和歌山市本町3丁目18番地
TEL 073-423-4148 FAX 073-431-4505
ei-kobata@kbts.jp

心の健康相談・更年期の健康相談

神人クリニック

院長 神人 勉 (高18期)
〒732-0053 広島市東区若草町18-46
TEL 082-261-0600

メールアドレス shirai-t002@wakayama-c.ed.jp

創立170周年、同窓会の淵源に思う



和歌山耐久会会長 西 博義 (高19期)

昨年11月3日、耐久高校創立170周年の記念式典が体育館で盛大に行われ、幸いにも私も記念すべき式典に出席させていただいた。

日本有数の歴史と伝統を有する母校の卒業生は「耐久高校同窓会(耐久会)」として活動しているが、その淵源に関する資料が最近見付かったので報告したい。

和歌山県立文書館の和歌山県歴史資料アーカイブに、稲むらの火の館所蔵「渋谷家文書」がある。広川町広の渋谷家に保存されていたその古文書の中に、「有田学友会」(明治三十二年八月)というタイトルの資料があり、設立趣意書、発起人、会則、役員氏名等が記載されている。

当時は耐久社から耐久学舎に改称し、経営・教育の充実を図りはじめ、舎長も初代野田四郎氏から濱口容所氏(第九代吉右衛門、衆議院議員、後に貴族院議員)に移って間もなくの時期であった。学友会事務所も耐久学舎(安楽寺)に置いていた。

設立の目的は会則に「本会は専ら有田学友相互の親睦を図り智識を交換するを以て目的とす」と記され、会長に濱口儀兵衛(九代、梧圃氏)、評議員に濱口吉右衛門(容所氏)、岩崎重次郎氏、野田四郎氏ら錚々たる顔ぶれが名を連ねている。

組織は旧村単位(一部合同)で和歌山、大阪、京都、東京、仙台を含め十五部編成となっている。

最後のページには戦後、渋谷氏の自筆で「この会は中学以上の学校卒業生(有田郡内)の会だったそうです」と書かれているが、吉備実業学校、箕島実業学校ともに明治40年の設立なので、有田学友会は実質耐久社・耐久学舎の同窓会であった。

なお、創立150周年記念「耐久校史」には、同窓会の前身として1904年に校友会が作られたとあるが、1899年の渋谷家文書は校友会の礎となったのではないだろうか。

疲弊した地元、有田地域の発展のために、同窓会も有田学友会設立趣意書にある「先輩後進相率いて以て和合協力その利を実にせんことを欲す」の精神で、新たな出発を期したいものである。

式典に参加して



有田耐久会会長 和泉 保廣 (高22期)

式典の実行委員会に有田耐久会の役員も加えて頂きました。私たちは普段から会員の勧誘に取り組んでいます。今回の式典にこの2、3年にご加入頂いた行政関係の方々も来賓として登壇されました。嬉しい限りです。

コロナパンデミックも3年目を迎えました。今日においても世界中で収束の気配が見えません。講師の野尻孝子さんには、ご多忙にもかかわらず記念講演をお引き受け頂いたこと本当にありがとうございます。コロナ感染防止対策において、一つの自治体(和歌山県)

が国の方針を待たず、知事の強力なリーダーシップの下で、県福祉保健部技監である野尻さんは感染ルートへの追跡の徹底とPCR検査の徹底、早期のワクチン接種を勧められました。また、保健所は全国的に統廃合が行われ、各地で縮小・減少され業務が逼迫しました。が、和歌山県では保健所の体制を維持強化し感染拡大を抑え込んできました。この対策は「和歌山モデル」としてアメリカのワシントンポスト紙も称賛しました。

記念公演の朗読と歌による生涯劇「梧陵さん」は、構成・脚本・作詞作曲を池永義子さんが手掛けられました。3年前に「濱口梧陵伝」を手にとり、読み進めながら文章をまとめ、詩を書き、合唱曲を創り上げていったそうです。合唱は池永さんの指導しているファミリーコーラス「ほほえみ」の仲間たち、朗読は同じ仲間の岩本さんが担当してくれました。最後の混声三部合唱は耐久高校合唱部と共に歌い上げ、梧陵さんの強い思いや信念をしっかりと伝えてくれました。普段は耳にする機会がないコーラスの迫力に私は感動すると共にあらためて音楽っていいものだなあと思いました。

10年に一度の式典ですが、コロナ感染防止のため在校生のみならず全員が会場に参加できなかったことが残念に思います。感じたのは在校生はじめ皆で作りに上げた式典であったと思います。来賓で登壇された皆さん、司会・進行の岡本幸子さん、野尻孝子さん、朗読の岩本泰子さん、池永義子さん、ドローン空撮と式典撮影の山本琢哉さん、そして在校生のみならずありがとうございます。最後にPTA、教職員、同窓会のみならずお疲れ様でした。

 橘 爪 正文 (高39期) ご予約は TEL 0737-88-7005 FAX 0737-88-7775 URL http://www.tatibanaya.jp 〒649-0434 有田市宮原町新町17	田辺法律事務所 弁護士 田辺 善彦 (高14期) 〒640-8144 和歌山市四番丁26番地の2 TEL 073-431-2801 FAX 073-433-2299	有限会社 衣奈不動産鑑定所 不動産鑑定士 衣奈 伸和 (高18期) 〒643-0004 湯浅町湯浅2026-5 豊園ビル TEL 0737-65-3066 FAX 0737-62-4066	医療法人大和会 宮井クリニック 宮井 将博 (高34期) (一部予約制) 泌尿器科 一般外科 TEL 0737-22-3333 〒649-0433 和歌山県有田市宮原町須谷533-1 診療時間 午前9:00~12:00 午後4:00~6:30 休 診 木、土、日・夜・祝日
---	--	--	--

◆ 地元、有田耐久会にご入会を！ (お問い合わせは事務局 0737-62-4148)



創立170周年記念公演

朗読と歌による生涯劇「梧陵さん」



朗読：岩本泰子(高36期)



ピアノ：池永義子(高21期)



第三部は創立者濱口梧陵翁の生涯を朗読と歌によって公演。この劇を構成・脚本・作詞作曲された池永義子さんは『濱口梧陵伝』を手にとり、改めて読み進めたのは三年前。梧陵さんの生き方や、みんなの為にしっかりと歩まれた強い思いや信念を伝えられるよう、物語を進めたいとペンを執った。書き進めていくうちに文章だけでは言い足りなくて詩が生まれ、音を重ねメロディを乗せてみた。そうして生まれたのが六曲の挿入歌と混声合唱『梧陵翁の夢』である……と上演の思いを語っている。

岩本泰子さんの朗読とファミリーコーラス「ほほえみ」、耐久高校合唱部による歌で、梧陵翁の生い立ちから、社会への貢献、死後にも語られる功績まで展開、そして最後は池永さんの思いを乗せた自身のピアノ演奏で締めくくった。参加者は会場いっぱい響き渡る渾身の演奏に聞き入った。

梧陵翁の夢を170周年後も永く永くつないでいってもらいたいと切に願う公演だった。

法眼貞子(高19期)

創立170周年実行委員会・経過報告

令和3年5月27日 第1回準備委員会	実行委員長・副実行委員長決定	8月19日 第6回実行委員会	司会者決定・パンフレット・式典各担当
7月 9日 第2回準備委員会	実行委員メンバー決定・委嘱	9月13日 第7回実行委員会	司会者進行表・当日来校者・当日生徒
10月26日 第1回実行委員会	実行委員自己紹介・記念事業・他	10月11日 第8回実行委員会	「梧陵さん」前撮り・当日同時配信
12月14日 第2回実行委員会	記念講演講師・式典当日の日程・他	10月24日 第9回実行委員会	実施要項・当日役割・当日までの日程 (最終確認)
令和4年2月15日 第3回実行委員会	新型コロナウイルスにより延期	11月 1日 準備作業	配布物袋詰め作業(生徒ホール)
5月 6日 第3回実行委員会 (部長会議)	来賓及び招待者・予算・総司会・他	11月 2日 準備作業	会場設営
6月 8日 第4回実行委員会	今後のスケジュール・他・部会別協議	11月 3日 創立170周年記念式典	
7月11日 第5回実行委員会	校舎全景航空写真・学校への寄贈品・記念品・部会別協議	☆記念式典の様子は、耐久高校ホームページ「170周年記念式典」動画より配信していますので、どうぞ御覧下さい。	

創立170周年記念事業実行委員会収支決算書

①収入の部

単位：円

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
繰 入 金	3,600,000	3,600,000	0	同窓会 3,000,000 P T A 600,000
諸 収 入	1,000	260,004	-259,004	祝儀 関西耐久会他13件 260,000 利息 4
合 計	3,601,000	3,860,004	-259,004	

①収入の部

②支出の部

3,860,004円 - 3,594,787円 = 265,217円

耐久高校創立170周年記念事業実施に当たっては過分のご厚志を賜り、誠に有難うございました。

記念事業につきましては不行き届きの点もあったかと存じますが、無事完了いたしましたので、上記の通り決算報告をいたします。

なお、残金265,217円につきましては、繰入金の割合にしたがって、同窓会会計へ221,015円・PTA会計へ44,202円返戻させていただきました。

②支出の部

単位：円

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
消 耗 品 費	200,000	179,069	20,931	実行委員長印・ファイル・封筒他
食 料 費	100,000	44,858	55,142	講師手土産代、昼食代 他
印刷製本費	300,000	300,635	-635	案内状・封筒・返信ハガキ・パンフレット・同窓会報「51号」補助
通信運搬費	100,000	18,016	81,984	案内状・札状・振込手数料
広 告 料	200,000	0	200,000	
委 託 料	1,000,000	1,350,000	-350,000	航空写真、映像撮影・配信、記録映像制作、記念品(クオカード、醤油)
報 償 費	200,000	48,000	152,000	司会謝金 他
旅 費	100,000	75,000	25,000	記念講演講師 他
記 念 寄 附	1,000,000	1,216,545	-216,545	プロジェクター2台、専用台1台、スクリーン1面
会場設営費	300,000	276,798	23,202	花代(体育館/校長室/応接室/花束) 会場設営用消耗品他
予 備 費	101,000	85,866	15,134	WiFiレンタル料、アクリルパネル他
合 計	3,601,000	3,594,787	6,213	

令和3年度予算・決算書

耐久高等学校同窓会

令和3年4月1日～令和4年3月31日

1. 収入の部

	予算額	決算額	増 減	備 考
入 会 金	1,020,000	947,500	-72,500	全日制 186名*5,000 定時制 7名*2,500
会 報 広 告	100,000	92,464	-7,536	会報48・49号広告代
会報協賛金	150,000	39,000	-111,000	有田耐久会より
寄 付 金	150,000	0	-150,000	
雑 収 入	10,000	8	-9,992	預金利息
(収 入 計)	1,430,000	1,078,972	-351,028	
前期繰越金	1,337,129	1,337,129	0	
(収 入 合 計)	2,767,129	2,416,101	-351,028	

2. 支出の部

	予算額	決算額	増 減	備 考
1. 運 営 費	190,000	16,760	-173,240	
会 議 費	20,000	0	-20,000	
渉 外 費	30,000	15,000	-15,000	有田タイムス広告費
負 担 金	40,000	0	-40,000	
旅 費	100,000	1,760	-98,240	講師依頼旅費
2. 活 動 費	1,620,000	505,981	-1,114,019	
総 会 費	200,000	0	-200,000	
母校援助費	600,000	176,711	-423,289	卒業証書筒他
同窓会報費	600,000	327,676	-272,324	会報48・49号印刷、郵送代他
助 成 費	150,000	0	-150,000	
雑 費	70,000	1,594	-68,406	飲み物代
3. 諸 費	140,000	119,901	-20,099	
事 務 費	40,000	37,798	-2,202	はがき代他
慶 弔 費	50,000	42,103	-7,897	供花他
払 戻 金	50,000	40,000	-10,000	転出生払戻
(支 出 計)	1,950,000	642,642	-1,307,358	
4. 繰 出 金	202,000	194,750	-7,250	
基 本 金	102,000	94,750	-7,250	きのくに信金定期へ
同窓会館設立基金	100,000	100,000	0	ゆう貯定額へ
5. 予 備 費	615,129	0	-615,129	
(支 出 合 計)	2,767,129	837,392	-1,929,737	

2,416,101 - 837,392 = 1,578,709 次年度へ繰り越し

同窓会会計について

※収入…令和3年度は、入会金として全日制5,000円・定時制2,500円を終身会費として頂いています。(中途転校・退学の場合は返金) 他に同窓生各期や個人からの協賛金や寄付金など。

※支出…クラブ支援、国際交流、講演会、会報などの学校援助に直接・間接に還元。卒業後は、同窓生間や母校の情報を名簿や会報を通じて提供、各期の同窓会開催に援助、母校の支援、会の運営費ほか。

耐久高等学校 第8回 志学ゼミ

1学年主任 湯田良英

10月18日(火)、「耐久高等学校第8回志学ゼミ」が実施されました。本校では今年度より「スクール・ポリシー」を策定し育てたい生徒像を明示しています。人や社会の中でいかに在るかを深く考えさせ、将来を見据えた進路目標の設定を含め、高い志を持つ生徒を育てる「在り方生き方」教育の充実を図っているとあります。

志学ゼミは、その一環として、様々な分野で活躍されている本校卒業生の方々に講師にお迎えし、ご自身の生き方や社会との関わり等について講話をしていただくという

志学ゼミは、その一環として、様々な分野で活躍されている本校卒業生の方々に講師にお迎えし、ご自身の生き方や社会との関わり等について講話をしていただくという

うものです。講師の方々のこれまでの貴重な経験や社会人としてのお話に、生徒たちは真剣に耳を傾けていました。今後は、この貴重な体験を活かして、「社会とつながる力をつける」ことを念頭に、高校生活をより有意義なものにしてくれることを願っています。

志学ゼミ 生徒感想

1-1 杉村 謙心

【講師 井上信太郎先生】

講話を通して井上先生は「みかん農家」という職業にとっても強いこだわりを持っていると感じました。他のみかんとの違いを聞かせていただいたときに、「完全熟したものを穫る。また詰める箱にもこだわっている」と聞き、買い手の人のことを想い、品質をよりよいものにしようとしている

のが伝わってきました。私もこれから様々な物事に対してこだわりを持ち、人のことを想って行動するという井上先生の精神を見習い、今後の生活に役立たせていきたいと思っています。

1-2 亀井 楓花

【講師 大浦慶喜先生】

大浦先生はとても優しく私たちに接してくださったので自然と緊張がほぐれていきました。過去の話では、自分を叱ってくださる人の大切さや、仕事を選ぶときに、お金ではなくワクワク感を大切にするなど、すぐくわいになるお話ばかりでした。中でも一番印象に残ったのは「目標に対して計画を逆算して立てる」という言葉でした。この貴重な体験を糧として今後に活かしたいと思っています。

1-3 福田 菜月

【講師 中島隼人先生】

中島先生のお話で、窓口業務やイベント活動などの市役所の仕事内容をくわしく知ることができ、とても勉強になりました。また、高校生活では目標を立てることや楽しむ時と頑張る時のメリハリが大切だと学び、自分に足りないことだと気づくことができたので、意識して生活していきたいと思いました。質疑応答の時間を多くとっていただいたため、緊張がとけ、自分の知っていたことも知ることができました。

1-4 石井 友梨

【講師 三角治先生】

私は三角先生のお話を聞くまでは学校の授業にあまりやりがいを感じていませんでした。勉強は将来役に立つから分らないものだとすら思っていました。しかし、「学ぶことで世界観を広げることができ、真実を見抜く力がつく」という三角さんのお話を聞いて、今まで勉強してきたことは無駄ではなかったと感じるようになりました。もっと学ぶことで知識を増やし、真実を見抜く力をつけ、自分に合った道を選択していきたいと思っています。

1-5 赤山 侑斗

【講師 弓場守先生】

弓場先生、先日は丁寧な指導をいただきありがとうございます。私も将来、消防の救急救命士になりたいと思っていたので、今回のお話は将来の進路を考える上でとても参考になりました。私が最も心に残っていることは「常に使命感と責任感を持つて職務に当たっていた」という言葉です。死と隣り合わせの被災者や患者と向き合っている救命士にとって、最も大事なことでたとえ伝わりませんでした。だから私も弓場先生のような責任感のある救命士になりたいと思いました。今後ともよろしくご指導お願い申し上げます。



丸新本家
〒643-0004 有田郡湯浅町湯浅1466-1
http://www.marushinbonke.com
湯浅醤油(有)
〒643-0004 有田郡湯浅町湯浅1464
http://www.yuasasyouyu.co.jp

同窓会のご宿泊・ご宴会は有田川温泉へ!!



有田市国道42号線沿 Tel 0737-88-5151

各種印刷・紙器・果実包装紙

辻本印刷所

〒649-0303 和歌山県有田市新堂208-1
TEL (0737) 82-4444・82-5400
FAX (0737) 83-6006

同窓の情報交換のスペースとして会報を活かしましょう。

部活OB・OGたちの絆

合唱部の巻

合唱部は、3年生5名・2年生4名の合計9名で活動しています。主な活動は、対面式や壮行会などで校歌の演奏や、文化祭で演奏

県高等学校総合文化祭での演奏などを行っています。演奏する曲は自分たちでやりたい曲や季節にあった曲を選んでいきます。練習は生徒中心で行い、パート練習では、CDやピアノを使っ

て音取りをしています。パート練習が終わると、合わせをして、部長を中心に、声のバランスや強弱、曲想などを考えてより良い曲作りを行っています。少

人数なので一人一人が責任を持ち、練習に取り組んでいます。今年行われた、耐久高校170周年記念式典の公演では、混声合唱曲「梧陵翁の夢を」作詞作曲の池永義子先生のご指導の下、ファ



えみ」さんと一緒に舞台上に立ち、歌わせていただきました。また、近畿高等学校総合文化祭和歌山大会では、作曲家三宅裕太先生のご指導を受け、言葉を伝える表現の大切さを学びました。新型コロナウイルスの影響で、演奏会などが中止になったりすることもあり、発表する場がありませんが、目標を掲げて歌をつくっていき、演奏することの達成感や楽しさを感じてほしいと思っています。

顧問 馬場美加

紡ぐ

俳壇・歌壇

- ・ 薪足して話弾むや暖炉燃ゆ 太田きみ子(高18期)
- ・ はらはらと雪消えゆきはかなさよ 福澤恵子(高18期)
- ・ 永久に炎ゆ緋むらの火の物語 楠本弘子(高女28期)
- ・ 梧陵翁より歴史はるかな耐久の一七〇周年讃へて祝ふ 坂本康寛(高18期)
- ・ 偉大なりその道筋に迷ひなし 池永義子(高21期)
- ・ 伝えねば命の重み緋むらの炎にかけた翁の想い 大前真紀(高32期)

響

栖原海岸の夕景、夕日がとてもきれいだ。心惹かれる素敵がいつばいだ。海面に映る夕日が通ったあとのようにできる光の道。真つ赤に、朱色に、黄金色に染まる夕焼け空。曇りの日には雲の間から伸びる何本かの真つ直ぐな光の筋。オレンジ色、薄紅色、茜色、ピンク色、薄紫色、藍色など、いろんな色が混ざり合う幻想的な夕焼け雲。晴れの日には晴れの日なりの、曇りの日には曇りの日なりの魅力を持つ。刻々と変化し、二度と同じ光景が見られないその一瞬一瞬の光と色を見せてくれる。

沈みゆく夕日にはさびしさも感じられる。でも夕焼け雲の美しさにはほっと気持ちが和らぎ、穏やかな気分になれる。そして「よし、また明日!」と思えてくる。

『編集後記』

同窓会報51号をお届けします。本号は創立170周年特集号となっており、第1部記念式典の紹介では、記念事業実行委員長の挨拶、学校長式辞、生徒代表の挨拶を掲載しました。じっくりと読み味わってください。

第2部記念講演は本校卒業の県福祉保健部技監野尻孝子先生「新型コロナウイルス感染症との闘いに思う」梧陵さんのこころの継承」のご講演、第3部記念公演の朗読と歌による生涯劇「梧陵さん」の記事は会報委員でまじめを担当しました。関東、関西、和歌山、有田の各地耐久会会長の記念事業に因んだ寄稿と合わせお読みいただくと、式典当日の感動が蘇ります。私自身も記念式典に参加しましたが、とりわけ生涯劇「梧陵さん」の朗読の澄み切った声、温かみと迫力ある合唱、圧巻渾身のピアノ演奏が今も忘れられません。志学ゼミの真摯で前向きな学び、合唱部の活動。紡ぐにも梧陵翁が登場し、響の新鮮な文章も心に残りました。改めて感じる梧陵翁の大きな足跡、讃えよ耐久吾等が母校です。

